

(別添2)

No.	9
策定年月	令和3年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 羽後町産地 (作成主体:羽後町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

秋田県羽後町は、水田面積3,447haを有し、主食用米の作付割合が60%を占める水田地域である。近年は、主食用米が比較的高値で取引されてきたことにより、作付け割合が増加していたが、主食用米の需要が減少する中で、加工用米等の生産拡大や、複合経営を実施するための園芸品目の導入と併せて、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産拡大にあたっては、農家の減少が進み、担い手への集積が進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。

また、水田の生産力を最大限に活用するため、地力の増進や、雑草対策に取り組むことにより単収の増加と安定的な生産を実現していく。

現在、羽後町においては「羽後町農業振興計画」により羽後町の農業振興と水田のフル活用に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組により具体化するとともに、関係者の連携を強化し、農業の活性化を促進するものである。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

本地域で生産している品種「リュウホウ」は、全量170トン(令和元年)が町内の各JAに出荷され、主に豆腐や味噌用として実需に販売されている。

しかし、生産量の変動が激しく安定しないため、実需から安定した供給が求められている。

そのため、地力の向上、連作障害の回避、排水対策の徹底が課題となっている。

(2) 生産における現状と課題

大豆の作付面積は平成29年の191haをピークに減少傾向に転じている。単収は、長期的に低調基調となっており、全国平均を大きく下回っている。

単収低下の要因としては、長期的な作付による地力の低下と連作障害、排水不良による湿害によるところが大きい。

令和2年産においても、7月の長雨によりほ場に停滞水が見られ、中耕・培土作業の遅れや、湿害が生じ、初期生育が十分に確保できなかったことが収量低下の大きな要因となっている。

さらに、農家数の減少によって作業集団等の担い手への農地集積が進み、1団体あたりの作業面積が拡大したことで、天候によっては作業が適期に実施できなかったり未実施になってしまうケースが増えていることも大きな要因として挙げられる。

そのため、GPSを利用したスマート農業機械の導入や圃場の団地化によって作業効率を向上させ、適期作業実施の徹底を図る必要がある。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	リュウホウ	(172) 172	(160) 160	(172) 172	(130) 130	(125) 125	(99) 99	(224) 224	(200) 200	(170) 170
作物計		(172) 172	(160) 160	(172) 172	(130) 130	(125) 125	(99) 99	(224) 224	(200) 200	(170) 170

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	リュウホウ	10	5.8%	10	6.3%	10	5.8%	
作物計		10	5.8%	10	6.3%	10	5.8%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

秋田県の基準と同様に、4ha以上の、同一作物が作付けされており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地を「団地」として、団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。